

いのちからの問い



# 宗教から問うゲノムテクノロジー

「ゲノム」は膨大な遺伝子情報のことで、体の特徴や機能を細胞レベルで決める人体の設計図です。いま人類はゲノムを解析し思い通りに操作し始めています。このまま進んでいくなれば、いのちの選別に繋がりがねません。

宗祖親鸞聖人が『教行信証』総序に書かれる「穢けがを捨て浄じようをねがい」は、「穢」(悪、劣ったもの、病、暗さなど)を嫌い捨てようとし、「浄」(善、優れる、健康、光、明るさなど)をねがい求める私たちの日常の感覚であり、それはやまゆり園事件の「役に立たないものは不幸を生むから殺す」考えと地続きです。またハンセン病問題に潜む優生思想も同じだといえます。その善よし悪あしを打ち破やぶってくるのが念仏です。ところが、私たちは善よしを求め、勧め、喜びとし、生きる意味を感じている。なにかができる自分を生きている。なにかをできる人を求める。そして、悪あしを嫌きらう。

2020年12月にノーベル賞を受賞した「クリスパー・キャス<sup>9</sup>」は狙ったゲノムの場所を簡単に改変できるというゲノム編集の可能性を広げた技術です。2030年、ゲノム解析のコストは限りなくゼロに近づくと試算され、人類は地球上のあらゆる生命の遺伝情報を手に入れることが可能になる。その先に、どんな未来が待っているのか。その時私たちは、病ではなく健康を、劣ったものと優れるものを「人間の付加価値」で決めて選び取っていくのでしょうか。

本年度の北陸連区差別問題研修会は、感染症拡大防止のため、研修ホールでのネット中継のみの形式で開催します。申し込みも不要です。ぜひお越しください。

- 期 日 2022年5月26日(木) 13:30 から 16:30
- 会 場 富山教務所 研修ホール Zoomによるネット中継 ※講師は来所しません
- 日 程 13:30 開会／講義 13:50／休憩／14:50 対談／休憩／15:50 質疑応答／16:30 閉会
- 講 師 【講義】島蘭進しまどのすすむ氏〔宗教学者、ゲノム問題検討会議代表、東京大学名誉教授〕  
【対談】島蘭進しまどのすすむ氏・佐野明弘さのあきひろ氏〔同朋会館教導、真宗大谷派僧侶〕
- 参加費 1,000円
- 問合せ先 富山教務所 076-421-9770
- 主 催 北陸連区(当番：金沢教区解放運動推進委員会)